

修了者挨拶

2021. 09. 25

本日は、諸先生方のご臨席を賜り、私たち修了生のために、学位記授与式を挙げていただき、誠にありがとうございます。修了生一同、心より御礼申し上げます。また、只今、南知恵子研究科長より温かい激励のお言葉を頂きましたこと、重ねて御礼申し上げます。加えまして、感染予防に配慮しながら運営をしていただきました教務の方々、学業と仕事の両立にあたり様々な支援をいただいた家族の皆様、そして、学びの場を提供して下さった全ての皆様に感謝の意を表します。本当にありがとうございます。

さわやかな秋風が吹くこの六甲台キャンパスに立ち、修了という事実に対峙した時、修了生一人ひとりの胸中には、さまざまな想いが去来しているに違いありません。

振り返れば、昨年3月、新型コロナウイルスの影響により、授業スケジュールや授業形式の変更と、想定外の事態が起きました。しかし、このような急な状況変化にも関わらず、諸先生方は、即座に、かつ柔軟に適応し、質の高いオンライン授業を提供してくださいました。毎週、金曜・土曜のカリキュラムのほとんどは、オンラインを介して、約70人のメンバーと画面越しに過ごしてきました。ほんの一時期、対面授業になった際には、画面の中の仲間の姿を、はじめてリアルで拝見して、まるで芸能人に会ったかのような感動の記憶がよみがえります。そして、神戸大学MBAでの1年半は瞬く間に過ぎていきました。その中で、私たちは、かけがえのない多くの仲間を得ることができました。仲間たちと同じ目標に向かって共に学び、切磋琢磨した時間は、とても有意義で贅沢でした。日々、仕事との両立をしながら、レポート作成や修士論文作成の孤独な作業を完遂できたのも、仲間の支援があったからに他なりません。

ケースプロジェクト・テーマプロジェクトでは、メンバーが同じ課題に取り組み、何度も議論を重ねることで、自分ひとりの能力では、到底到達することができない成果を得ることができ、「共同の本質とは何かを」知ることができました。職場の利害関係のない学生同士、自由な議論を重ね、意見の違いや衝突を経た、その先に、当初のアイデアからは全く考えられない想定外の展開が生まれました。同時に、職場では、なぜこのような議論ができないのか、深く考えるきっかけを与えてくれました。当たり前や一般的と思っていることに疑問を持ち、まだ解き明かされていない問いを立て、問いの検証に挑んでいくプロセスは、私たちに、ビジネスを動かす思考を養ってくれました。

修士論文では、作成にあたりインタビューやアンケートにご協力いただく中で、あらためて、多くの支援のおかげと気づかされました。指導教官や副指導教官は、私たちが行き詰った悩みを、いつでも相談にのっていただき、熱量の高いご指導をいただきました。先生方は、ご多忙にも関わらず、自らの時間を割いて、学ぼうとする学生に対して、常に「研究の光」を照らしてくれました。紆余曲折しながらも、修士論文を前進させることができたのは、先生方が照らした「研究の光」があったからに他なりません。先生方や仲間によって支えられて、途中で、「修士論文を書かせて頂いている」という気持ちが芽生え、感謝を忘れず完遂するんだという、芯の強い気持ちへと昇華しました。

また、講義では、各分野において、先端の研究をされている先生方との対話や議論を通して、多くの気づきや発見、新しい視座を得ることができました。それは、これまで私たちが業界で培ってきた常識や経験では、はかることのできなかつた知見ばかりでした。自らの変革のため、気持ちをフラットにし学ぶ姿勢を整え、1つでも多くの知見を自社に持ち帰って実践するために、私たちは積極的に講義に参加することができました。特に、5つのコア科目を中心に学べたことは、総合的な経営能力の醸成に繋がったと思います。また、学生全員そろっての共通の講義は、議論を通して各人の人柄、考え方を学ぶ場としてとても貴重な経験となりました。

数々の思い出を振り返りますと、神戸大学での1年半は、多くの出会いによって支えられて、実りのある時を刻みました。多くの苦楽を共にすごしてきた仲間とは、これからも繋がり、互いに良い刺激を与えあうと確信しています。

しかし、いつまでも過去を名残惜しむことは許されません。神戸大学で得た経験をどうやって社会に還元していくか、模索し実践することこそが、私たち修了生に与えられた使命であると考えています。

私たちの前途には、多くの取り組むべき課題が山積しています。つまり、私たちが活躍すべき舞台は、次々に用意されているということです。神戸大学で経験した、分野の垣根を越えて、共同し実践することで、課題に立ち向かっていかなければなりません。日本そして世界に発信していけるように、それぞれが所属する業界においてさらに中核的な人材として活躍できるように、修了生一同、今後とも精進していきます。加えて、神戸大学MBAが日本屈指のMBAとして更に輝いていくためにも、修了生1人ひとりが各業界で活躍することが、母校への恩返になると自覚しています。

私たちは、今日、神戸大学 MBA を修了します。そして、私たちは、それぞれの道を進みます。新しい事業をはじめもの、所属企業や所属機関でさらに研鑽するものとさまざまです。いずれのものにとっても、神戸大学で学んだ意義を思い出し、託された使命を精一杯果たしていきます。1年半、本当にありがとうございました。

最後になりますが、皆様のご多幸と神戸大学経営学研究科の輝かしい発展をお祈りいたしまして、修了者挨拶とさせていただきます。

令和3年9月25日

修了生代表 肥後和宏